



UNITED ARROWS

2000.4.1 ~ 2001.3.31

第12期 事業報告書



東
关
通
信

第
三
卷

To Our Shareholders

UA理念
(Philosophy of UNITED ARROWS Group)
「MAKE YOUR REAL STYLE」

私たちは、新しい「日本の生活・文化の規範」
(THE STANDARDS OF JAPANESE STYLE)
となる価値観を創造し続ける集団です。

株主の皆様におかれましては、益々
ご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第12期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

ユナイテッドアローズが創業したのは1989年。

渋谷の第1号店がオープンしたのは1990年のことです。

つまり、2000年は、歩み始めて10年という記念すべき年でした。

そして、いよいよ21世紀。

私たちはこの10年余りの間、愚直に積み上げてきたものを、時に維持し、時に発展させ、時に破壊しながら、この新世紀においてもさらなる進化を遂げなければならないと思っております。

そこでこの10年間で振り返り、総括

する意味を込め、ユナイテッドアローズは企業理念を刷新いたしました。

“MAKE YOUR REAL STYLE”

私たちは、新しい「日本の生活・文化の規範」(ジャパニーズ・スタンダード)となる価値観の創造に向けて挑戦を続けます。私たちの考える新しい「日本の生活・文化の規範」となる価値観とは、世界に通用するインターナショナルなものであり、日本の文化・伝統と西洋文化との融合をもって、これを目指すものです。

この新しい理念に基づき、第13期は「お客様の欲しいものが、欲しい時に必ず揃っている品揃え」「お客様がワクワクする品揃え」「お客様ニーズを満たすスピーディーで的確な店舗運営」「お客



様ニーズを喚起し、店舗と商品が最も輝く販売促進活動」の実現を目指し、お客様の期待に応えてまいります。

株主の皆様におかれましては今後ともより一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年6月
代表取締役社長 重松 理

➤➤➤ 第12期（2001年3月期）を振り返っていかがでしたか？

率直に申し上げますと、かつてないほど厳しい年でした。

一期前の第11期の5月を境に既存店売上高の伸びが止まり、その後既存店の前年割れが続いていました。

この状況を打開すべく、第12期は「商品政策 = ビジネス・ドレス部門へ比重シフト、商品企画 = コンペティターとの商品差別化、出店政策 = 自店間競争の回避へ向けた増床の絞り込みと地方出店優先」という方針を掲げスタートしましたが、なかなか良い結果に結びつかず、悪い流れを止められないまま10月には業績予想の下方修正を発表するに至ってしまいました。

その後、ようやく施策が実を結び、客数の減少に歯止めがかかると共に既存



店売上高が前年を上回り始め、また新業態であるGREEN LABEL RELAXINGとCHROME HEARTSが好調に推移したことにより、業績は緩やかに回復基調に転じました。

最終的には、下方修正した業績予想を2度に亘り上方修正することができ、12期連続の増収は達成しましたが、経常利益ベースでは6億4百万円の減益という、大変残念な結果となりました。しかしながら危機感を糧に短期間で業績の底を脱することができたのは、今後の当社にとっては、大きな教訓となるものと考えています。

➤➤➤ 衣料品等小売業界はユニクロ（ファーストリテイリング社）一人勝ちの構図が続いていますが、やはり影響は大きかったとお考えですか？

衣料品等の総小売市場規模は1994年度には11兆7千億円でしたが、1999年度には10兆9千億円と5年間で8千億円縮小しました。集計中の2000年度統計では、恐らく更に1千億円～2千億円の縮小となっているでしょう。

この背景となっているのが消費支出の減少であり、総務省の統計によれば1993年度以降7年連続の消費支出減となっていますが、とりわけ衣料品については更に厳しい状況が続いており、1991年度から9年連続の支出減となっています。一方でパソコンの急速な普及や移動体通信の活況により通信費等の支出は増加している訳で、このような状況はしばらく続くのではないかと

想定しています。

こういった状況の下、ファーストリテイリング社は1998年度に830億円だった売上高を2001年度には4,000億円規模に拡大すると予想されています。3年間で3,000億円以上の売上の伸びとなる訳で、これは衣料品等の総小売市場規模の約3%にあたります。自動車やビールと違い、衣料品等小売業界は寡占的なシェアを獲得することは困難な業界であることから、このシェアアップは極めて影響が大きいものであることは間違いありません。事実、1990年代後半からの「カジュアルブーム」を背景としてシェアを拡大してきたカジュアル衣料専門店も、前期においては同社との競争についていけず、減収や大幅な減益に追い込まれています。

当社においても、同社の影響は大きいものと認識していました。ベーシックなカジュアルウェアについては価格デフレの影響が大きいものと考え、「商品的差別化」をキーワードに、デザイン的にひねりを加えた商品を多く投入する等の施策をとりました。しかしながら、結果的にはそれが失敗で客数の減少を招いてしまいました。当社におけるベーシック商品の縮小分はほとんどが競合のセレクトショップに流れてしまったのです。つまりファーストリテイリング社との競争を避けつつも、他のコンペティターにシェアを奪われてしまった訳です。早期にこの部分が検証できたために、その後商品政策を軌道修正し、2001年の春夏シ



ーズンからはカジュアル&スポーツ部門の売上を回復することができました。

正式な統計はありませんが、セレクトショップの市場規模は、漸減が続く衣料品等小売市場に反比例して拡大しており、当社を含む上位5社の売上高はこの5年ほどで約3倍になっています。売上規模も1千億円程度であり、今後も成長を継続することができる有望な市場であると確信しています。これらセレクトショップについては、顧客層の違いから今後もファーストリテイリング社の影響を受けることは少ないと思います。

➤➤➤ 企業理念を刷新しましたね？

刷新というよりは、原点復帰だと思っています。

当社は設立時に「我々は、商品開発及び環境開発を通じ、生活・文化・社会を高度化することで、社会に貢献することを目的とする」という創業の志を掲げました。そしてその第1項として掲げたのが「日本の生活・文化の規範（THE STANDARDS OF JAPANESE STYLE）となる価値観の創造」です。

当社ではこの志とは別に、「進化する老舗」の創造」という企業理念を掲げていましたが、業態が複数になったこともあり、理念としてそぐわなくなっていました。そこで、この企業

理念をUA業態固有のコンセプトとし、全業態を包括する理念として、創業の志に再度立ち返ることにしました。

こういった背景から、もう一度社内のベクトル合わせをおこなうべく創業時に掲げた志を再点検したうえで、21世紀を迎えるにあたって、新生ユニテッドアローズのスタートに掲げたのが「MAKE YOUR REAL STYLE」であり、「私たちは、新しい「日本の生活・文化の規範」（THE STANDARDS OF JAPANESE STYLE）となる価値観を創造し続ける集団です」というサブタイトルとセットで企業理念を形造っています。

企業理念とは会社が何のために存在するのか、社会に対してどのような貢献をしていくのか、従業員は何を目指して働くのかを表すものであると共に、お客様と向き合う時や会社としての意思決定をおこなう時等、あらゆる場面において当社で働く人々の判断の拠り所となる極めて重要なものです。この理念にはお客様に対するREAL STYLEの提供という意味は勿論、当社で働く人々に対する「あなたはユニテッドアローズという会社で何をやる人なのですか？」というメッセージが込められているのです。

新しい企業理念の下、名前のとおりUNITED ARROWS（東ねた矢）となつて、更なる発展を目指していきたいと思っています。

➤➤➤ 第13期への抱負を聞かせて下さい。

年明け以降この数ヶ月、景況判断は「ゆるやかな回復」といった表現から、徐々に「弱含んでいる」といった表現に下方修正されており、失業率の高止まりや企業倒産の増加を背景とする雇用不安や家計収入の伸び悩み等とあいまって、個人消費は今年度も低調に推移するのではないかと見ています。

こういった環境下、衣料品等小売業界も極めて厳しい状況が続くのは間違いありません。この一年で企業間の優勝劣敗は更に明確になり、勝ち組みと負け組みに二極化していくものと思われます。

当社にとって、前期は非常に厳しい年でしたが、後半からは既存店売上高の回復や新業態の好調な推移を背景として、業績が回復軌道に乗り始めました。この勢いを持続したまま、良い形で第13期を迎えることができましたので期待できると思います。

今期は特に「ウイメンズ部門」に注力していきます。当社はメンズの重衣料をベースに起業したので、創業以来ずっとメンズの比率が高いままに推移してきました。昨年後半からはウイメンズの拡大をテーマとして掲げています。そもそもウイメンズの市場規模はメンズの二倍であり、当社にとっては本格的に取り組むことによって一層のシェアアップを図ることが可能な市場です。メンズ・ウイメンズ双方の拡大により成長を加速していきたいと考えています。

Business News

UAが展開する業態別の今期の主な取り組みについてご紹介いたします。

「UA業態」は、メンズカジュアルが回復したことにより堅調に推移し、また、昨年度立上げました「GLR」「CH」業態はともに順調に伸長しております。



Changes UNITED ARROWS



ユナイテッドアローズ 有楽町店

UNITED ARROWS

ユナイテッドアローズ（UA）業態におきましては、長く低迷が続いておりましたメンズカジュアルが回復し、また、堅調に推移しているウイメンズの拡大と併せまして、売上は回復基調にあります。

特に、今後の重要課題の一つとして捉えているウイメンズマーケットへの取り組みでは、既存の有楽町店を「You Are So Beautiful」をテーマに、ウイメンズの品揃えを強化してリニューアルオープンしたのをはじめ、ウイメンズオンリーのUAラボ(実験店舗)として、渋谷 キャットストリート店を業態転換した「Changes UNITED ARROWS」さらには「ANOTHER EDITION」を出店するなど、強化を図ってまいりました。

「Changes UNITED ARROWS」は、今が旬となるものを中心に、強さではなく女性らしさを強調した品揃えをしており、一方の「ANOTHER EDITION」は、卸ビジネス用として同レベルを1998年より地方百貨店、専門店を中心に販売されておりましたが、今回初めて直営店として出店するものであります。

今後は、上記2店でのテストマーケティングを通じて、さらにウイメンズマーケットへの取り組みを強化し、新業態確立への布石にしてまいります。

また、UA業態店舗の特性・収益構造をベースに全店舗を整理・グルーピングし、より高いお客様満足の提供を目指すことを目的として、ヤング層をコアターゲットとしている「UAⅠ部」、ヤング層に加えアッパー層をコアターゲットとしている「UAⅡ部」、アッパー層やマニアック層をコアターゲットとしている「UAⅢ部」を新設いたしました。

なお、今後の出店は、2001年秋にユナイテッドアローズ業態としては20店舗目となる「広島店」のオープンを予定しております。



GREEN LABEL RELAXING

グリーンレーベル リラクシング（GLR）業態は、認知度の向上および業態特性からウイメンズ拡大の方針に転換したことにより全般的に順調に伸長しております。

特に既存店においては、「拡大に向けてのモデル店舗」と位置づけました「新宿店」が売上高対前年比を大幅に上回るなど好調に推移しております。

昨今、団塊ジュニア、ニューファミリーと呼ばれる層に向けた参入が相次いでいます。

しかし、GLR業態は、前年度上半期に「船橋店」「イクスピアリ店」を出店しタイプの異なる5店舗が出揃ったことになり、お客様のニーズ・ウォンツを的確に把握し、その情報を編集していくマーケティング力だけではなく、今後の商品・出店政策を見据えた体制がより一層強化・整備されたことになりました。これからはも仮説・検証を重ねていき、ヒト（接客）・モノ（商品力）・ウツワ（店舗環境）の質を維持しつつ、数多くのお客様に喜んでいただきたいと思っております。今後のGLR業態にご期待ください。



CHROME HEARTS

クロムハーツ（CH）業態では、「CHROME HEARTS TOKYO」が出店から1年を経過しました。出店施策として、「高級感があり、少し“隠れ家”的な立地」に出店したことにより認知されるまで1年を要しましたが、昨年末より、認知度が飛躍的に高まっており、それとともに売上も好調に推移しております。

また、2001年1月には「CHROME HEARTS OSAKA」がオープン。黒檀（こくたん）を多用し、黒に統一した店内はより一層ブランドイメージを高めており、シルバークセサリー、レザーウエアをはじめ、バッグ、ニット、デニムの小物などで「クロムハーツの世界」をトータルに表現しており、お客様にも単独ショップの独特の「濃い空気感」を体験していただけます。

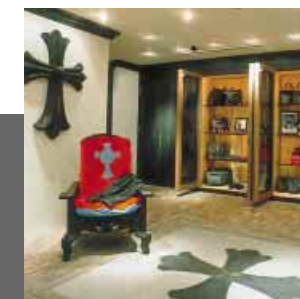
CH業態は、今後も「二年に一店舗」程度のペースで、全国主要都市に単独店を出店していく予定です。



グリーンレーベル リラクシング 新宿店



クロムハーツ 大阪店




UNITED ARROWS

Interview

ウイメンズ事業強化の核となる
UAラボ「Changes UNITED ARROWS」



商品部ウイメンズ・ディレクター
小野瀬 慶子

1989年10月の創業以来、「トラッド・マインド」を哲学にファッション市場で本物のオシャレを提案し続けてきたユナイテッドアローズが、渋谷 キャットストリート店をリニューアル、今年2月に同社初のウイメンズ専門店UAラボ「Changes UNITED ARROWS」をオープンしました。「進化する老舗」として多事業軸展開を経営戦略に挙げるユナイテッドアローズのウイメンズマーケットへの本格的な取り組みとして注目を集めています。そこで同店のディレクションを担当する商品部のウイメンズ・ディレクター小野瀬 慶子さんに抱負を聞きました。



「ウイメンズ」強化に向けて

UAは、これまでクオリティの高いウイメンズ商品の販売で実績を築いてきました。現在、ウイメンズ路線の強化を進めていますが、メンズをベースにトラッド中心の商品構成のUA店でウイメンズ商品を展開するには、売り場のスペースやお客様の層の広がりなどでやはり制約があります。そこで新しい業態の開発を見据えて、近い将来おしゃれなストリートになる可能性のあるキャットストリートのUA店をウイメンズ専門店にリニューアルしました。これによりメンズの制約がない自由なウイメンズ展開にチャレンジできます。「Changes」という店名には、ポジテ

ィブな変化といったメッセージが込められています。

商品の構成は、今を感じさせるけれども、クオリティやシルエットはトラッドマインドに通じるモノを切り口にしています。また、女性から見てもいやみのないセクシーさを意識した商品や、ランジェリー、ビーチウエアなども豊富に揃えました。靴やバッグ、アクセサリ類も充実させています。

UAラボということもあって、現在は欧米からの輸入品を中心に価格帯では少しハイレベルの商品を厚くしています。これは、ファッションに高感度とこだわりを持つリッチなアダルト層をターゲットにしている2階のメンズウエアのUAラボ「District」との調和を多少意識してのもです。キャットストリートのUNITED ARROWSは1階と2階を併せてUAのこれからの方向を示すシンボリックなお店だと考えています。



「コンセプト」は輝く女性

「Changes」の基本コンセプトは、女性がいつまでも魅力的で且つ楽しく暮らすのに欠かせないアイテムを揃えることにあります。上手に時代感覚を取り入れてファッションにおいても自分らしい表現をしている女性。また、そのプロセスを楽しめる女性、“知的ミーハー”な女性を対象にしています。将来はUAならではの切り口のコスメ類の展開も考えています。目指しているのは脱セレクトショップ、女性のためのスペシャリティストアです。

「新しい事業軸」の確立へ

商品企画や選定に女性ならではの感性や価値観を活かしたいと思っています。まだスタートしたばかりなので仕入れ商品が主体です。商品の仕入れは、まず自分が着てみて、着心地や素敵に見えるかなどをチェック。その上で、UAらしいクオリテ

ィの高さ、時代の半歩先を行く先駆性などを考慮して選びます。もちろん価格や供給力などビジネスとしての要素も重要です。将来はお客様の要望に合わせて「Changes」独自の企画商品の割合を徐々に増やしていきたいので、そのための体制づくりも進めていきます。

ウイメンズのファッション市場はメンズに比べ大きく、海外ブランドを含め競合も激しいですが、その中で店舗スタッフのサービスも含め、どこにも負けないキラキラした空間にしたいと考えています。これは私見ですが、「Changes」は近い将来3店舗ぐらいまで増やしたい。それまでに商品構成を含めて女性が楽しく過ごせるお店として新しい事業軸を完成させたいと考えています。また、UA全体のウイメンズの売上げをメンズと同じぐらいまで伸ばしていきたいと思っています。

人気上昇中の「ANOTHER EDITION」 初のオンリーショップが原宿に誕生

UAは、新しい形のラボとして「ANOTHER EDITION」のオンリーショップを東京・渋谷区の前原地区にオープンしました。



「ANOTHER EDITION」は、UAのこれまでの商品ディレクションとはちょっと違う形のウイメンズのカジュアルブランドです。営業部の若手、森 由美さんが自分のセンスと個性でディレクションを任された、今風に言うなら社内ベンチャー的な形で誕生。別編集という意味で「ANOTHER EDITION」と名付けられました。

1998年から卸ビジネス用のレーベルとして地方の百貨店や専門店などで販売され、個性的なデザインと動物をモチーフにしたキャラクター性などが人気を呼び、好調な売れ行きを見せています。

自らデザインも手がける森さんは、自分が担当するブランドのお店ができたことについて「自分では普通な感じでデザインしたものが、個性的と言われる。自分らしさを表現したデザインの商品や私の感性で選んだ商品が沢山のお客様に気に入ってもらえるのはとてもやりがいがあります。私は可愛さの中にチョッピリとんがった、個性のあるものが好きです。これからもお客様に喜んでもらえる楽しい商品を増やしていきたい」と語っています。

このお店のコンセプトは、新しい豊かさの提供。「ターゲットは10代後半から20代をメインにしていますが、親子2世代でお買い物にいらっしゃる方も多く、UAで育った世代の方でも、少し個性的なこのお店の商品を気に入って頂いています。お客様に新しい発見をしてもらえる、そして得た気分を感じてもらえるお店にしたい。」と意欲的な森さんのディレクションで、ブランドのさらなる浸透を図り、卸ビジネスを強力にサポートしていきます。



Another
Edition



UNITED ARROWS

営業の概況

当期におけるわが国の経済は、IT（情報技術）関連などの一部の業種に明るさが見えたものの、景気回復の大きなカギである個人消費が雇用や所得環境の先行き不透明感から依然として伸び悩み、景気は自律的回復への実感を得られず、企業を取り巻く環境は全般的に厳しい状況で推移いたしました。

当社が属する衣料品等小売業界におきましても、消費構造の変化により個人消費が情報通信などに流れる中、衣料支出の減少を背景として、総市場規模の漸減傾向が続いております。また、一昨年来より顕著となっている大量生産によるコストメリットを武器とした低価格商品が市場を席捲するなど、市場の環境は激化の一途をたどっており大変厳しい状況でありました。

このような状況のもと、当社は「商品開発力の強化」、「店舗環境のグレードアップ」、「人的接客サービスの向上」に取り組み、他社との差別化に注力してまいりました。

出店に関しましては、ユナイテッドアローズ（UA）業態では「札幌店」（札幌市中央区：平成12年8月開店）の新規出店の他、UAラボ（実験店舗）として東京都渋谷区に「District UNITED ARROWS」（ディストリクト：平成12年9月開店）、「Changes UNITED ARROWS」（チェンジズ：平成13年2月開店）および「ANOTHER EDITION」（アナザーエディション：平成13年2月開店）をそれぞれ出店し、新たな業態開発へ取り組んでまいりました。

グリーンレーベル リラクシング（GLR）業態では、上半期に「船橋店」（千葉県船橋市：平成12年4月開店）、「イクスピアリ店」（千葉県浦安市：平成12年7月開店）を相次いで出店し順調に拡大を図ることができましたが、下半期の出店につきましては、慎重に出店場所を選定する必要のあるとの判断により、第13期以降に先

送りにし、既存店舗の安定・強化に注力いたしました。

また、クロムハーツ（CH）業態につきましては、「CHROME HEARTS TOKYO」（クロムハーツ東京：東京都港区）が出店から1年経過し、認知度の向上に伴い非常に高い計画達成率を記録し、さらには、平成13年1月に第2号店となる「CHROME HEARTS OSAKA」（クロムハーツ大阪：大阪市中央区）を出店するなど、順調に伸ばいたしました。

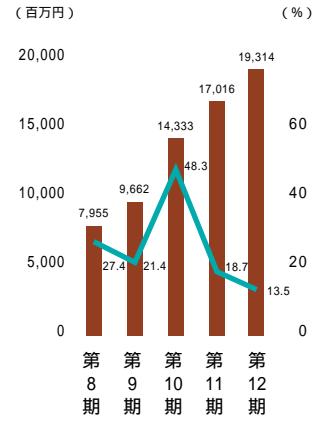
この結果、当期末現在の各業態別の店舗数は、UA業態19店舗、GLR業態5店舗、CH業態2店舗（その他UAラボ5店舗）となりました。

営業面におきましては、当期初以来、既存店売上高が前年を下回るなど厳しい状況で推移し、秋冬商品の立上がり時期には、記録的な猛暑・残暑により初秋物商品が影響を受けるなど苦戦を強いられ、上半期においては業績予想の大幅な下方修正を行うに至りました。

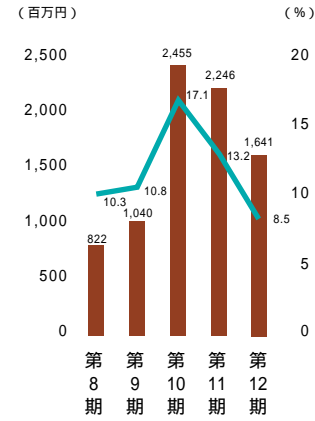
しかし、初冬より、気候の関係でずれ込んでいた秋冬物商品の実需が動き出すと共に、昨年来から取り組んでおりました新業態「GLR」および「CH」の両業態が好調に推移し、さらには、低迷を続けておりましたメンズカジュアルにおける商品政策の変更が早期に奏効し、売上が回復基調に転じたことにより、当期初計画には至らなかったものの、上半期において大幅に下方修正いたしました通期業績予想を二度に亘り上方修正するなど、良い形で期を締めくくることができました。

以上の結果、売上高は193億14百万円（前期比13.5%増）、営業利益は16億31百万円（前期比31.4%減）、経常利益は16億41百万円（前期比26.9%減）となり、当期利益は8億79百万円（前期比25.1%減）となっております。

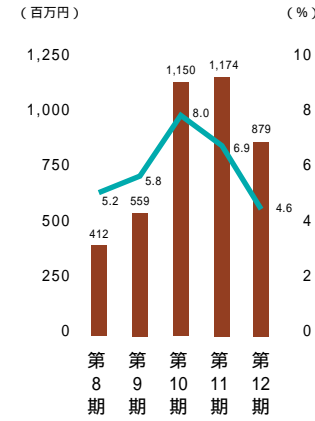
売上高・売上高伸び率



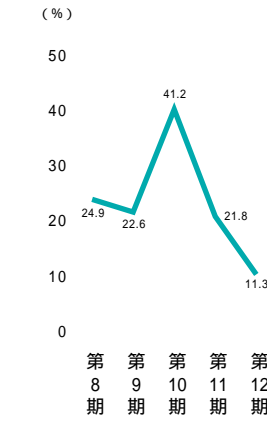
経常利益・経常利益率



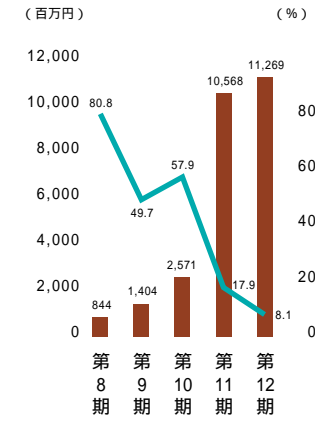
当期利益・当期利益率



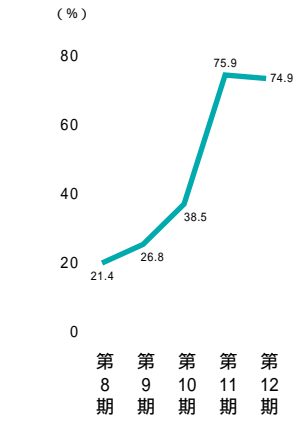
ROA



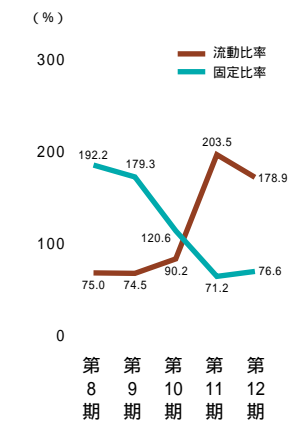
株主資本・ROE



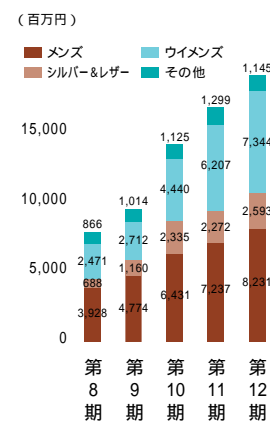
株主資本比率



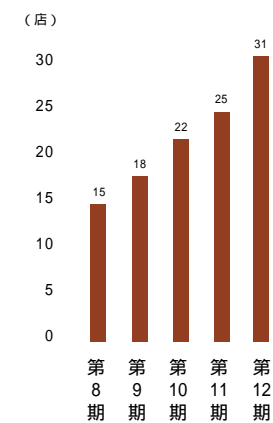
流動比率・固定比率



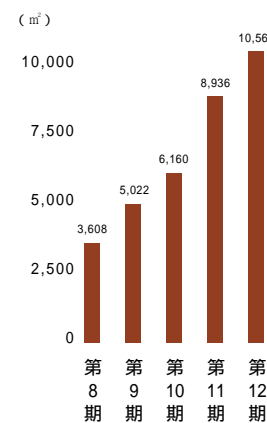
部門別売上高



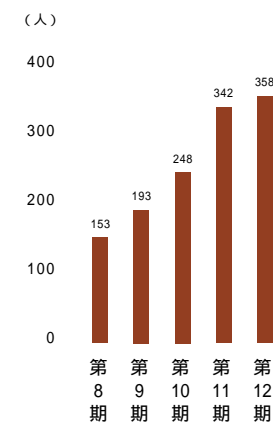
店舗数の推移



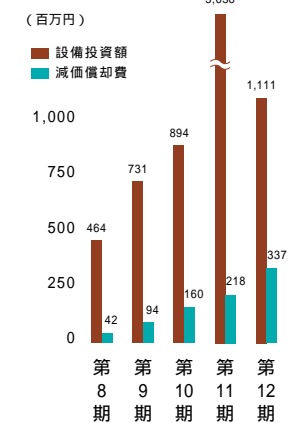
店舗売場面積の推移



従業員数の推移



設備投資額・減価償却費



(単位：千円)

期別 科目	前期 (2000年3月31日現在)	当期 (2001年3月31日現在)	期別 科目	前期 (2000年3月31日現在)	当期 (2001年3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	6,410,076	6,421,343	流動負債	3,150,352	3,590,022
現金及び預金	775,657	544,611	買掛金	1,554,193	2,035,649
売掛金	138,324	89,300	未払金	1,028,288	684,383
有価証券	901,378	600,000	未払法人税等	288,544	291,634
商品	3,238,220	3,153,906	未払消費税等		159,776
貯蔵品	6,499	11,351	未払費用	17,137	19,464
前払費用	66,698	80,722	前受収益	9,024	4,714
未収入金	1,189,558	1,725,505	賞与引当金	214,173	204,197
未収消費税等	46,562		その他の流動負債	38,992	190,201
繰延税金資産	54,372	70,914	固定負債	211,061	194,398
その他の流動資産	625	145,030	役員退職慰労引当金	111,788	123,730
貸倒引当金	7,819		長期未払金	75,541	36,128
固定資産	7,519,947	8,632,196	長期預り保証金	10,760	34,540
有形固定資産	4,647,620	4,934,649	長期前受収益	12,972	
建物	2,863,895	3,067,712	負債合計	3,361,413	3,784,420
構築物	4,840	6,755	(資本の部)		
車輜運搬具	23	13	資本金	3,030,000	3,030,000
器具備品	308,649	405,484	法定準備金	4,101,592	4,119,480
土地	1,454,684	1,454,684	資本準備金	4,095,600	4,095,600
建設仮勘定	15,527		利益準備金	5,992	23,880
無形固定資産	561,383	627,199	剰余金	3,437,016	4,119,638
借地権	138,165	138,165	当期末処分利益	3,437,016	4,119,638
商標権	10,869	8,973	(うち当期利益) (1,174,548) (879,384)		
電話加入権	16,804	19,280	資本合計	10,568,609	11,269,118
ソフトウェア	349,659	460,780	負債及び資本合計	13,930,023	15,053,539
ソフトウェア仮勘定	45,885				
投資等	2,310,942	3,070,347			
投資有価証券		49,412			
長期差入保証金	2,042,427	2,608,306			
長期未収入金	89,161	74,815			
長期前払費用	107,309	288,353			
繰延税金資産	56,495	100,280			
その他の投資等	16,129	20,278			
貸倒引当金	581	71,100			
資産合計	13,930,023	15,053,539			

POINT.1

設備投資
当期の設備投資の総額は、1,111百万円であります。その主たるものは、新規出店投資によるものであります。

POINT.2

固定資産の減価償却累計額
当期末の有形固定資産の減価償却累計額は863百万円であります。

(単位：千円)

科目	前期 (1999年4月1日から 2000年3月31日まで)	当期 (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)
(経常損益の部)		
(営業損益の部)		
営業収益	17,016,842	19,314,895
営業上費用	17,016,842	19,314,895
営業費用	14,638,794	17,683,087
販売費及び一般管理費	7,573,618	9,125,293
営業利益	2,378,047	1,631,808
(営業外損益の部)		
営業外収益	103,403	99,029
受取利息及び配当金	8,591	14,973
その他の営業外収益	94,812	27,548
営業外費用	234,875	88,892
支払利息	3,108	2,110
株発行費用	73,910	
為替差損	100,479	24,119
その他の営業外費用	57,377	44,820
経常利益	2,246,575	17,841
(特別損益の部)		
特別利益	1,537	143,246
固定資産売却益	595	
貸倒引当金戻入額	942	8,400
退職給付引当金戻入額		134,846
特別損失	171,810	241,698
固定資産除却損	71,958	33,716
貸倒引当金繰入額		71,100
役員退職慰労引当金繰入額	99,852	
退職給付引当金繰入額		116,726
本社移転損失		20,155
税引前当期利益	2,076,302	1,543,493
法人税、住民税及び事業税	897,816	724,436
法人税等調整額	3,937	60,327
当期繰越利益	1,174,548	879,384
前期繰越利益	2,147,663	3,305,841
過年度税効果調整額	114,805	
中間配当		59,625
中間配当に伴う利益準備金積立額		5,962
当期末処分利益	3,437,016	4,119,638

POINT.1

1株当たり当期利益
当期末における1株当たり当期利益は、73円74銭であります。

POINT.2

退職給付会計
当社が加入しているワールド厚生年金基金は、平成13年3月23日をもって解散が認可されました。同基金の解散に伴い、年金資産は加入者等に全額分配されることになりました。また、当社は同基金の解散に合わせ、同日をもって現行の退職給付制度を廃止したため、当期末における退職給付債務は存在いたしません。従いまして、当期中に計上された退職給付引当金繰入額134,846千円(販売費及び一般管理費18,120千円、会計基準変更時差異(特別損失)116,726千円)の全額を退職給付引当金戻入額として取り崩しております。

(単位：円)

科 目	金 額
当 期 未 処 分 利 益	4,119,638,880
これを次のとおり処分します。	
利 益 準 備 金	7,155,000
利 益 配 当 金	71,550,000
(1 株につき 6 円)	
次 期 繰 越 利 益	4,040,933,880

POINT.1

年間配当11円
当期末は1株当たり6円の株主配当を実施いたします。中間期に実施いたしました1株当たり5円の配当を合わせ、年間配当は11円となります。

(単位：千円)

科 目	期 別		科 目	期 別	
	前 期 (1999年4月1日から 2000年3月31日まで)	当 期 (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)		前 期 (1999年4月1日から 2000年3月31日まで)	当 期 (2000年4月1日から 2001年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー			投資活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	2,076,302	1,543,493	定期預金預入による支出	459,000	213,009
減価償却費	227,525	349,822	定期預金払戻による収入	10,000	399,000
無形固定資産償却額	33,479	113,083	従業員長期貸付金の増加	340	316
長期前払費用償却額	6,199	21,837	投資有価証券の取得による支出		49,412
賞与引当金の増加額(減少額)	41,355	9,975	長期差入保証金の増加	1,047,731	565,879
役員退職慰労引当金の増加額	111,788	11,941	その他投資取得による支出	621,672	386,350
貸倒引当金の減少額(増加額)	942	62,700	有形固定資産の売却収入	1,700	13
受取利息及び受取配当金	8,591	14,973	有形固定資産の取得による支出	2,781,113	1,088,856
支払利息	3,108	2,110	投資活動によるキャッシュ・フロー	4,898,158	1,904,811
有形固定資産除却損	71,958	33,716			
有形固定資産売却損		380	財務活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産売却益	595		短期借入金減少額	600,000	
売上債権の増加額	155,061	410,635	株式の発行による収入	6,768,000	
たな卸資産の増加額(減少額)	1,292,692	79,460	配当金の支払額	59,925	178,875
その他流動資産増加額	66,438	67,811	財務活動によるキャッシュ・フロー	6,108,075	178,875
仕入債務の増加額	184,485	481,455	現金及び現金同等物に係る換算差額		
その他流動負債の減少額(増加額)	21,198	254,682	現金及び現金同等物の増加額(減少額)	762,529	346,434
その他固定負債の減少額	42,820	5,552	現金及び現金同等物の期首残高	455,506	1,218,035
小 計	1,167,862	2,445,736	現金及び現金同等物の期末残高	1,218,035	871,601
利息及び配当金の受取額	8,591	14,973			
利息の支払額	5,270	2,110			
法人税等の支払額	1,618,570	721,347			
営業活動によるキャッシュ・フロー	447,387	1,737,251			

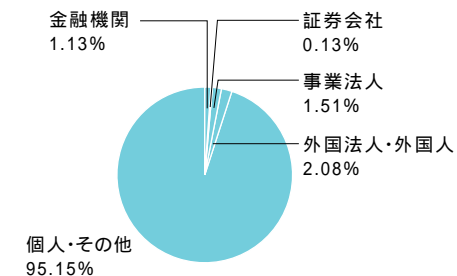
会社が発行する株式の総数 28,200,000株
発行済株式の総数 11,925,000株
株主数 1,587名
大株主

株 主 名	持 株 数	持 株 比 率
株式会社ワールド	3,178,500株	26.65%
畑 崎 廣 敏	2,003,500	16.80
重 松 理	1,150,500	9.64
岩 城 哲 哉	573,000	4.80
水 野 谷 弘 一	573,000	4.80
栗 野 宏 文	573,000	4.80
杉 岡 勝 人	573,000	4.80
日本トラスティサービス 信託銀行株式会社 信託ロ ステートストリートバンク アンドトラストカンパニー ザチェースマンハッタン バンクエヌエイロンドン	445,800	3.73
	270,700	2.27
	150,200	1.25

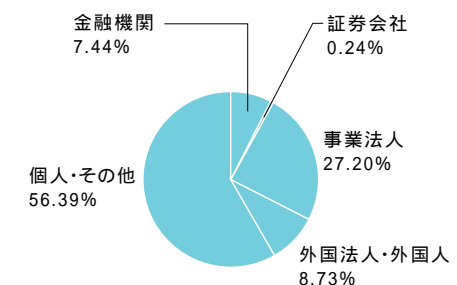
株主メモ

決 算 期 3月31日(年1回)
利 益 配 当 金 3月31日
受領株主確定日
中間配当を行う場合は、9月30日
定 時 株 主 総 会 6月下旬
名義書換代理人 三菱信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区永田町二丁目11番1号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
(連 絡 先) 〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号
三菱信託銀行株式会社 証券代行部
電話 03-5391-1900(代表)
同 取 次 所 三菱信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 掲 載 新 聞 日本経済新聞

所有者別分布状況



所有株式数別分布状況



商号 株式会社ユニテッドアローズ
UNITED ARROWS LTD.
本社所在地 東京都渋谷区神宮前二丁目31番12号
設立 1989年10月2日
資本金 30億300万円
代表者 重松理(しげまつおさむ)
従業員数 358名(男性209名・女性149名)
 平均年齢 28.7歳
 (男性29.6歳・女性27.5歳)
事業内容 紳士服・婦人服及び雑貨等の企画・販売
主要取引銀行

- 三和銀行 青山支店
- 三井住友銀行 南青山支店
- 東京三菱銀行 渋谷明治通支店
- 日本興業銀行 新宿支店

代表取締役社長 重松理
専務取締役 岩城哲哉
常務取締役 水野谷弘一
常務取締役 栗野宏文
取締役 杉岡勝人
取締役 高梨宏史
取締役 畑崎廣敏
常勤監査役 楠利文
監査役 北川貞昭
監査役 大沼淳
監査役 田中博久

UNITED ARROWS

原宿本店
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-28-1
 tel.03-3479-8180 fax.03-3479-8214
 NONSECT
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-11
 tel.03-5771-5601 fax.03-3403-1115
 CHROME HEARTS TOKYO ANNEX
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-11
 tel.03-5771-5602 fax.03-3403-1115
 UNITED ARROWS BLUE LABEL STORE
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-25-5 1F
 tel.03-3479-8186 fax.03-3479-8117
 ANOTHER EDITION
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-31-12 1F
 tel.03-5785-2501 fax.03-5785-2502
渋谷店
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-16-13
 tel.03-3797-9791 fax.03-3797-9797
 Changes UNITED ARROWS
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-17-9 1F
 tel.03-5464-2711 fax.03-5464-2718
 District UNITED ARROWS
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-17-9 2F
 tel.03-5464-2715 fax.03-5464-2718
渋谷公園通り店
 〒150-0041 東京都渋谷区神南1-20-11
 tel.03-3496-2703 fax.03-3496-2723
有楽町店
 〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町西武B館2F
 tel.03-3286-5580 fax.03-3286-5582
 THE SOVEREIGN HOUSE
 〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-6
 tel.03-3567-2880 fax.03-3567-2821
新宿店
 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-37-1 Flags 4F
 tel.03-5362-2951 fax.03-5362-7322

池袋店
 〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-28-2 池袋パルコ3F
 tel.03-5979-3735 fax.03-5979-3736
二子玉川店
 〒158-0094 東京都世田谷区玉川3-11-7
 tel.03-5716-3780 fax.03-5716-3781
柏店
 〒277-8550 千葉県柏市末広町1-1 柏高島屋ステーションモール3F
 tel.0471-48-2282 fax.0471-48-2280
横浜店
 〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島2-16-1 ルミネ横浜B1F
 tel.045-440-3045 fax.045-440-3046
神戸元町店
 〒650-0036 兵庫県神戸市中央区播磨町49
 tel.078-331-2660 fax.078-331-2610
神戸ハーバーランド店
 〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町1-8-1 オーガスタプラザ2F
 tel.078-360-4605 fax.078-360-4600
心齋橋店
 〒542-0086 大阪府大阪市中央区西心齋橋1-6-14 ビッグステップ1F
 tel.06-6258-5130 fax.06-6258-5126
心齋橋 御堂筋店
 〒542-0086 大阪府大阪市中央区西心齋橋2-1-5 日本生命御堂筋八幡町ビル1F
 tel.06-6484-2032 fax.06-6484-2033
梅田店
 〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1丁目 ディアモール大阪5号5100
 tel.06-6348-4663 fax.06-6348-4664
京都店
 〒600-8031 京都府京都市下京区寺町通四条下ル貞安前之町605 藤井大丸1F
 tel.075-223-0833 fax.075-223-0831
札幌店
 〒060-0061 北海道札幌市中央区南一条西4丁目1番地 4丁目プラザ1・2F
 tel.011-204-6080 fax.011-204-6084
新潟店
 〒950-0909 新潟県新潟市八千代2-1-2 万代シティビルボードブレイス1F
 tel.025-240-4606 fax.025-240-4607
名古屋店
 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-4-5 NOVA1F
 tel.052-265-1580 fax.052-265-1583
福岡店
 〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名1-15-11
 tel.092-716-3322 fax.092-716-3323

福岡アーキペラーゴ店
 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-2-43 ソリアアラザビル2F
 tel.092-737-3151 fax.092-737-3152

UNITED ARROWS FRANCHISE SHOP

旭川店
 〒070-0033 北海道旭川市三条通り7丁目 オクノデパート2F
 tel.0166-23-7484 fax.0166-23-1782
大分店
 〒870-0021 大分県大分市府内町3-78-3
 tel.097-537-1526 fax.097-533-0998

GREEN LABEL RELAXING

新宿店
 〒160-0022 東京都新宿区新宿3-38-2 ルミネ新宿2 2F
 tel.03-3345-9655 fax.03-3345-9656
町田店
 〒194-0013 東京都町田市原町田6-1-11 ルミネ町田3F
 tel.042-739-3333 fax.042-739-3334
港北店
 〒224-0003 神奈川県横浜市都筑区中川中央1-31-1 モザイクモール港北1F
 tel.045-914-2929 fax.045-914-2930
船橋店
 〒273-0012 千葉県船橋市浜町2-1-1 TOKYO-BAY ららぽーと3・1F
 tel.047-495-2077 fax.047-495-2080
イクスピアリ店
 〒274-8529 千葉県浦安市舞浜1-4 イクスピアリ内
 tel.047-305-5845 fax.047-305-5849

CHROME HEARTS

CHROME HEARTS TOKYO
 〒107-0062 東京都港区南青山6-3-14
 tel.03-5766-1081 fax.03-5766-1077
CHROME HEARTS OSAKA
 〒542-0086 大阪府大阪市中央区西心齋橋2-1-5 日本生命御堂筋八幡町ビル2F
 tel.06-6214-8820 fax.06-6214-8821



ホームページもご利用下さい。
 ユナイテッドアローズのHPでは、UAからの様々な情報を発信しております。また、IRページでは月次売上概況をはじめ、各種財務データを掲載しております。

ユナイテッドアローズ ホームページ アドレス
http://www.united-arrows.co.jp/
 本誌内容に関することは、当社IR部にお問い合わせ下さい。 tel.03-3479-9335